

## 挨拶は心の鏡と小学校で教わりませんでしたか？

今年も北海道・上富良野でスガノ農機主催の第32回土を考える会が7月10・11日に開催された。スガノの革新的なフロント作業機も興味深く、毎回いろいろな方達がやって来て意見交換を行なう。当然、北海道の生産者が多いが、本州や九州からもやってくる。今年はどうな変人・奇人に出会えるかというのも楽しみのひとつである。やはり感覚的に北海道以外で変わった方達が多いと感じることがあるが、やはりそれくらい努力して経営をされ、自立しているから自信が態度に表れるのだろう。このコラムを見ているよと、あいさつをしていただけの者もいれば、あからさまに**アツチ向いてホイ**の態度をとる者もいる。

嫌われてなんぼのヒール宮井なので別に頭に来る、ということではなく、また日常茶飯事である。  
知り合いに挨拶する場合、時速60kmで運転している自家用車では無理だが、トラクターの様に時速35km以下で走行する場合は、反対車線の車を注視しながら、左手を上げて挨拶することになる。同じ地区の住民でも毎回、毎度、全く無視されることがある。こちらは右手で挨拶すると

車やトラクターのピラーで、相手が私の動作を見るのができない場合があるので、少し気を使い左手を軽く上げて、挨拶するようにしている。これくらい丁寧に相手を考えて行動しているにもかかわらず、無視されるとカチンと来ると思われるが、本音は違う。私手が振る相手が誰か分からなくても、私のハンサム顔を分らないおトボケ者はそういうくない。私は心の中でこうつぶやく。「挨拶もできない3Sの極小野郎、家に帰ったら、あんまり小さいのでかーちゃん泣いているぞ」。ところが、こんなことはかわいいもので、もっと危険性を伴う場合がある。

折り畳みで4・5mの作業機や5・5mのコンバイン幅が、6m幅の直線道路で走行するのは大変だが、同じような作業機を持つ私の従兄は常日頃から「道路の真ん中を走ればいいんだ」と私よりも過激なことを言い、お互いその様に実践することになる。そうなるのが当然対向車が来て慌てふためくことがある。お

## 似て非なるもの、投資と捨て作り

Vol.18



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

よそ2台に1台はその様な行動をとり、結局ニラメッコの状態になるが、私はこの様な場合、左手だけではなく右手も使い、一言。"So, What?"  
こちらはヘッドライト、ハザード等を付けて1km手前から分かるようにしているのに、結局は相手がバックすることになる。これも戦後教育の間違った例で、「人間はみな平等?」。オイオイ、

# オレにも言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

いい歳カッパラッテまだそんなこと信じているのか? 正しくは「人類はみな平等だったら面白い」が正解だろう。

ところが、トラックなどの営業車や地域のあいさつを出来るマトモな人は、ずっと手前の空いているスペースや農道の取り付け口で私の通過を待っていてくれる。

パトカーだって面白くない顔をしながらも遠慮してトラクターやコンバインの走行の邪魔はしない。

では具体的にどの様な勘違い平等主義者が、私の目の前までやってくるのか記述してみよう。

一番癖が悪いのが、軽自動車、それもクワエたばこで赤ちゃんや子供を乗せている若い女性ドライバー。車の色は、赤、黒、そして白の順番だ。女性は与えられたことは男よりもしっかりとやるが、まわりの状況を確認しながらの運転は得意ではないようだ。それになぜか、男女を問わず、多くの軽自動車の運転者に状況判断能力には疑問符がつく。

支払が安くて車庫証明がいらないから軽自動車? やめときな。そんな貧乏根性丸出しで車乗るとロクな事ないよ。私の農場では軽自動車はない。理由は簡単だ。ボンネットがないので**動く棺桶**と呼んでいる。こんな車乗って長生きして息子に後

を継がせようなんて考えない方がいい。

二番目に癖が悪いのが、他町村の車、特にベンツ、アウディ系の車だ。

「オレ様は都会から来たんだ、田舎者は退ける」という雰囲気だ。追ってくる。そして私の顔を睨みつけるのも、元農家の子孫の運転手が多い。

最後の困ったチャンは私の住む行政区以外の生産者達だ。先ほどの軽自動車よりも手前で回避行動を取るの何とかなるが、私のコンバインを見ればどの様な行動を取れば、自分に利益をもたらすのか、そんな判断が出来ない者も多い。はやい話、ケンカを売っているのか?

ありがたいことに10年ほど前からこの様な農用機械で時速35km以下の車両は、その市町村の軽自動車のナンバーを付け、保険も入り正々堂々と道路を走れる。この制度を作った政府に感謝すべきであろう。

米国で田舎を走っているとやはりこのような状況になるが、もちろんトラクターやコンバインが優先するのは当たり前で、いつから日本は米国よりも都市国家になったのだらう。ちなみにまともな国にはトラクターを運転する大型特殊免許と言う免許制度は存在しない。日本だけ見ていると木を見て森を見ないことになるのだらう。

## セスナ172から見た「捨て作り」の現状

話は土を考える会に戻るが、今回は普通のおかしな生産者しかいなかったが、講師のE製粉のA社長の発言にはとても興味を持った。ご存知の通り、小麦の消費の85%は輸入である。以前にE製粉のS部長から輸入の方が良くも悪くも量があり、品質が安定していると聞いたことがあるが、A社長は国産麦も大切であり、小さな面積の生産者も大切であると発言された。一方で絶対量がある輸入麦が良いと言い、その一方では品質が安定していない国産麦も良いと言う。この様に相手に合わせて大ウソと分かっている発言出来る能力が、この北海道農業社会のサブイバルゲームでは必要なのだろう。ちなみに私の麦は倒伏ゼロだ。また儲かって嫌われそうだ。

もう一人の講師は札幌の隣町・江別市で春小麦の初冬播きで有名なK氏である。昨年10月号でも書いたがこの私が初冬播きのアイディアを考え、3年間、長沼町のグリーンバイオ研究所の景浦部長と研究したが、同じ頃大豆の秋小麦散播が普及し始めたので、この初冬播きは止めたがK氏は江別市全体として北海道一円で普及させることになり、そのご褒

美として日本農業大賞を受賞した。宴会ではスガノ農機のI氏はその辺のことが分かっている、私を指名し発言させバトルを期待していたようだが、**TPOをわきまえる**この私はその手に乗らず、そのない会話で雰囲気壊すことはなかった。

次の朝は札幌から旭川空港に飛んできたセスナ172に乗り込み、しっかりと操縦かんを握りながら、上富良野の会場の上を軽くグルグル飛び、滝川を経由して帰ったが滝川から岩見沢辺りの麦はひどかった。こんな麦作をやるから補助金もろいの捨て作りなどと言われるのだ。

確かに今年の**北海道の麦はひどい品質になる**だろう。平年の降水量の4倍で、倒伏もあれば、穂発芽、屑麦が多く発生する。

どうですかこの地域の皆さん、本誌にコラムを持つ関祐二さんに土壌分析を依頼して素晴らしい麦を作りましょう。投資と捨て金の違いがはっきり分かりますよ。ある方から「日本農業大賞、狙っているのですか?」と聞かれたので、「全く興味がありません」と答えた。私が受賞するのは**ホワイトハウス**でアメリカ農業大賞を農務長官と大統領が同席するところでした。それです。そんなの無理? さあ、世の中どうなるかわかりませんよ。